環境活動レポート

2011 年 6 月 15 日

株式会社　シズデン

目次

1. 組織の概要
2. 対象範囲
3. 環境方針
4. 環境目標
5. 環境活動計画
6. 環境目標の実績
7. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
9. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 組織の概要

● 会社名及び代表者名

株式会社シズデン　　代表取締役　増田　玲司

● 所在地

〒422-8006

静岡県静岡市駿河区曲金五丁目 17 番 5 号

TEL　054-284-4111　　FAX　054-284-6753

● 事業の概要

電気工事業　　国土交通大臣　許可　特-18　第 19275 号

電気通信工事業、管工事業

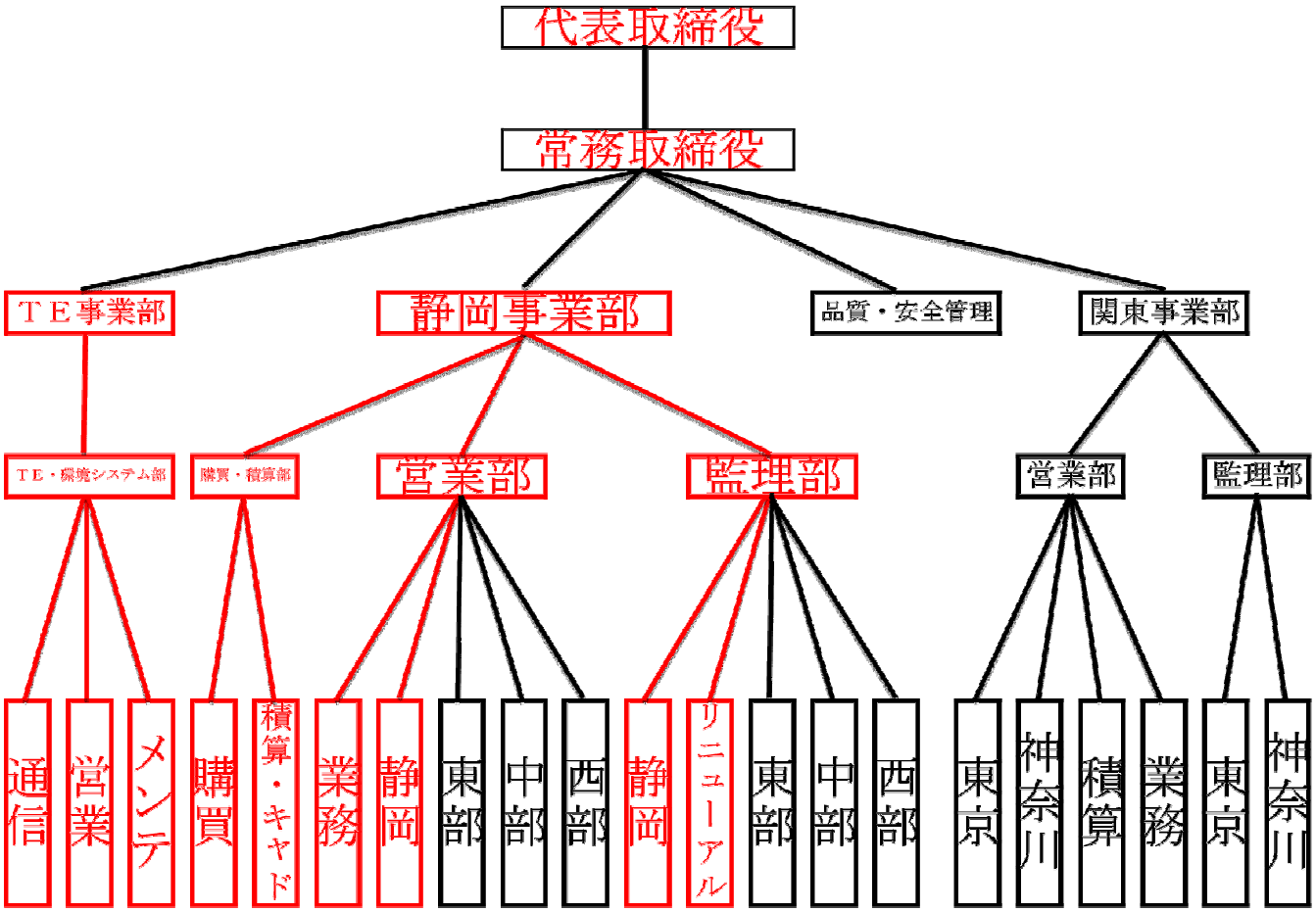
国土交通大臣　許可　般-18　第 19275 号

● 事業規模

社員　44 人　　延床面積　976.83 ㎡

3 月決算　　創業　昭和 22 年 5 月

2. 対象範囲

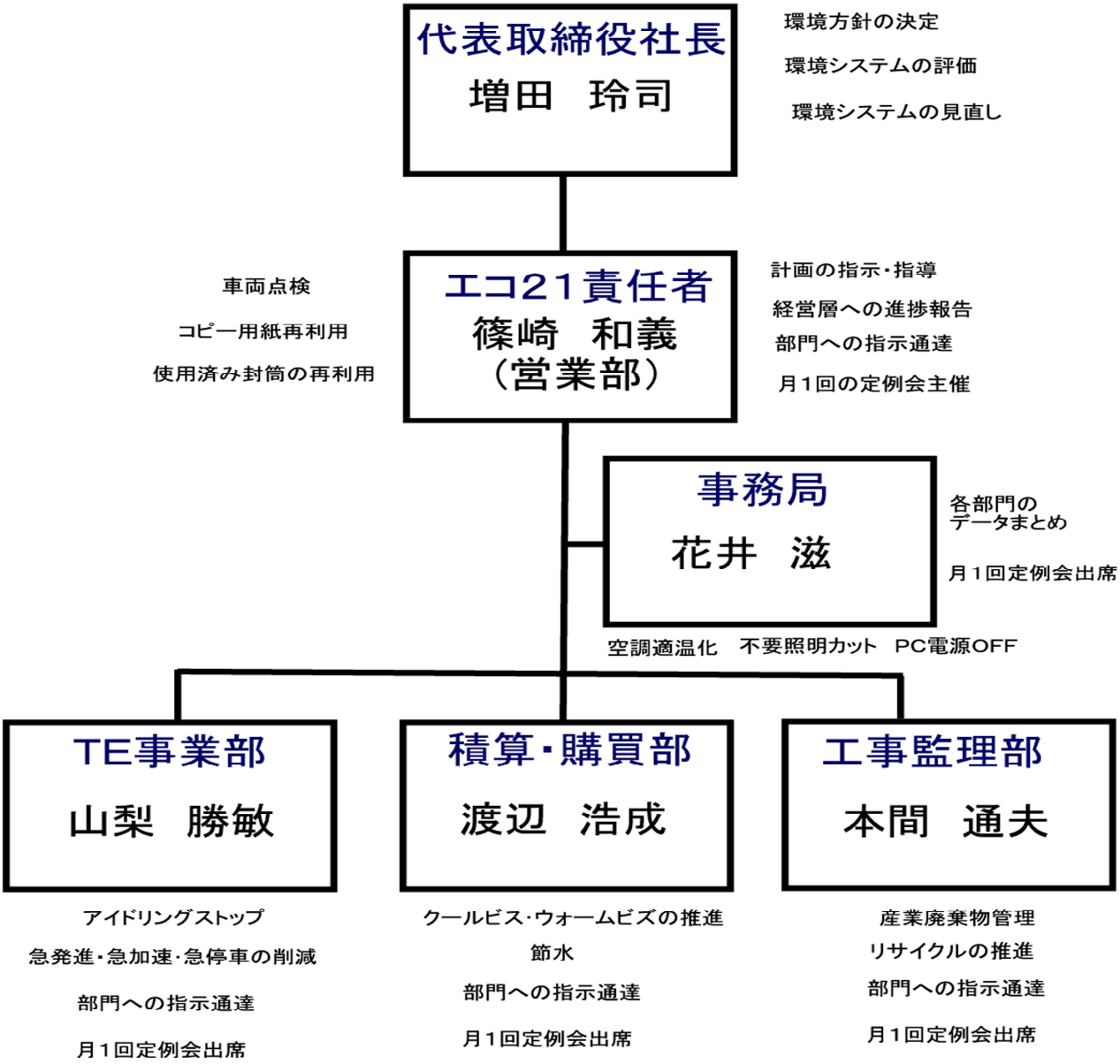


エコアクション２１対象部門は赤で表示してます

● レポート対象期間

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日の 1 年間

実施体制


代表取締役社長
増田　玲司
環境方針の決定
環境システムの評価
環境システムの見直し
エコ21責任者
篠崎　和義
（営業部）
車両点検
コピー用紙再利用
使用済み封筒の再利用
計画の指示・指導
経営層への進捗報告
部門への指示通達
月1回の定例会主催
事務局
花井　滋
各部門の
データまとめ
月1回定例会出席
空調適温化　不要照明カット　PC電源OFF
TE事業部
山梨　勝敏
アイドリングストップ
急発進・急加速・急停車の削減
部門への指示通達
月1回定例会出席
積算・購買部
渡辺　浩成
クールビス・ウォームビズの推進
節水
部門への指示通達
月1回定例会出席
工事監理部
本間　通夫
産業廃棄物管理
リサイクルの推進
部門への指示通達
月1回定例会出席

3. 環境方針

● 環境理念

株式会社シズデンは社員一丸となり、環境問題への取組を考え、環境への負荷を低減するように努めます。

● 行動方針

1. 環境関連法規制を遵守します。
2. 温暖化防止の為、業務用車両の効率的な利用等の促進を図り、二酸化炭素排出量の削減をします。
3. 事務所内における消費電力の低減をします。
4. 廃棄物の削減及びリサイクルの推進をします。
5. 環境方針を全社員に周知徹底すると共に、環境保全に関する意識を高め、環境保全状況の知識と認識の向上を図ります。

平成 20 年 11 月 1 日

株式会社シズデン

代表取締役　増田　玲司

4. 環境目標

対前年比 3%削減に取り組む

項目			単位	H22 年度基準年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度
二酸化炭素排出量	購入電力		KWh	127,910	124,073	120,351	116,740
	化石燃料	ガソリン	ℓ	34878.55	33832.19	32817.22	31832.70
		軽油	ℓ	441.3	428.06	415.22	402.76
	CO2 排出量		Kg-CO2	82117.433	79653.91	77264.29	74946.36
	総合距離		km	326,119	316335	306845	297640
	燃費		km/ℓ	9.350	9.630	9.919	10.22
廃棄物総排出量	一般廃棄物		t	1.36032	1.31951	1.27992	1.24152
	産業廃棄物		t	38.77	37.60	36.47	35.38
総排水量			㎥	※生活用水のみのため数値目標を定めず節水に努める			

5. 環境活動計画

担当者	活動項目
花井　滋	空調の適温化(暖房 21℃　冷房 27℃)
渡辺　浩成	クールビズ・ウォームビズの推進
花井　滋	不用な照明の消灯
花井　滋	待機中の PC 電源 OFF
山梨　勝敏	アイドリングストップ　エコ運転の推進
篠崎　和義	車両点検の徹底
篠崎　和義	コピー用紙の裏紙再利用
篠崎　和義	使用済み封筒の再利用
本間　通夫	産業廃棄物の管理徹底
本間　通夫	リサイクルの促進
渡辺　浩成	節水の徹底

6. 環境目標の実績

項目			単位	H22 年度 目標	実績	差額
二酸化炭素排出量	購入電力		KWh	143057.3	127,910	15147.3
	化石燃料	ガソリン	ℓ	36839.83	34878.55	1961.28
		軽油	ℓ	331.81	441.3	▲109.49
	CO2 排出量		Kg-CO2	86389.0865	82117.433	4271.6535
	総合距離		km	412,483	326,119	86,364
	燃費		km/ℓ	11.196	9.350	▲1.846
廃棄物総排出量	一般廃棄物		t	1.332	1.36032	▲0.0283
	産業廃棄物		t	14.0	38.77	▲24.77
	売上		千円	1,505,500	1,423,000	▲82,500
総排水量			㎥		670	

- 廃棄物の増加は電子マニフェストの導入により全部門を統計的に把握可能となったためです。
- この数字をベースとして減量、3R 化に創意工夫します。

7.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

担当者	活動項目	評価	見直し
花井滋	空調の適温化(暖房 21℃ 冷房 27℃)	設定規準を暖房20℃冷房29℃に変更 使用時間を原則 8:30～17:30 とし 12:00～13:00 は停止する 遅くとも 18:30 には停止する	継続
渡辺浩成	クールビズ・ウォームビズの推進	社内一丸となって推進する姿勢ができているので、さらなるパワーアップを！	継続
花井滋	不用な照明の消灯	遅くとも 21:30 には消灯する。(残業は原則 21:00 までとする) 12:00～13:00 は消灯する	継続
花井滋	待機中の PC 電源 OFF	起動時間の問題でなかなか効果が上がらず機種の更新及びセンター管理の導入を検討	見直し
山梨勝敏	アイドリングストップ エコ運転の推進	意識の高さは感じられるが、数字としての効果は見られない 燃費をグラフ化してアピール力アップを図る	見直し
篠崎和義	車両点検の徹底	点検に対する意識のばらつきがみられる 点検が命とお金、会社の信用を守ることをポスター等でアピールする	継続
篠崎和義	コピー用紙の裏紙再利用	裏紙利用の意識はあるがまだ徹底ていていない 業務改善でペーパーレス化を図る	見直し
篠崎和義	使用済み封筒の再利用	よく徹底できている	継続
本間通夫	産業廃棄物の管理徹底	分別処理、現場での処理が徹底できている	継続
本間通夫	リサイクルの促進	まずはリサイクルに対する意識を高める事から	継続
渡辺浩成	節水の徹底	節水の意識は高い	継続

今後への課題

- 本社から各支店、各現場への水平展開
- エコへの取組→創意・工夫の取組→固有技術の確立→会社の信用力アップ　上記流れの確立
- 業務改善によりペーパーレス化を図る

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される法規制等

法規・条例・規制	適用内容または規制基準値	備考	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物排出事業所との委託契約	契約(書)の締結	11.6.4
	マニフェストの管理	電子マニフェスト対応	11.6.4
	マニフェストの期間内返却	電子マニフェスト対応	11.6.4
	マニフェストの保管	電子マニフェスト対応	11.6.4
	投棄禁止	不法投棄を行わない	11.6.4
	廃棄物の悪臭・飛散防止	車両荷台にシートを被せる等	11.6.4
	保管場所への掲示	60cm×60cm 以上掲示	11.6.4
建設リサイクル法（元請けの場合）	建設副産物リサイクル計画書	請負契約書交付(工事施工計画書)	
	再資源化完了報告書	実施(完了)報告	
静岡市一般廃棄物処理に関する条例	一般廃棄物の分別排出		11.6.4
騒音・振動規制法（電気工事）	指定地域での特定建設作業	特定建設作業の届出	
	指定地域での作業日、時間帯規制	規制時間、作業日の厳守	
家電リサイクル法	指定家電の収集	テレビ・冷蔵庫 他	11.6.4
PCリサイクル法	ＯＡ機器の収集	パソコン・モニタ 他	11.6.4
環境基本値	一般的な自主努力		11.6.4
地球温温暖化対策推進法	温室効果ガス抑制措置	自治体施策へ協力	11.6.4
循環型社会形成推進基本法	３Ｒへの努力	廃棄物等の内、有用な物の循環的な利用を促進	11.6.4
グリーン購入法	環境物品の購入	事業者の一般的責務	11.6.4
自動車リサイクル法	引取業者への引渡し	リサイクル料金の支払い	11.6.4
建設業法	工事業者許可と更新	許可と5年ごとの更新	11.6.4

電気工事業法	工事業者許可と更新	許可と5年ごとの更新	11.6.4

● 違反・訴訟等

環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、法規違反及び訴訟は過去 3 年間ありませんでした。 近隣住民や周辺企業等の外部からの苦情もありませんでした。 今後も法令・条例等を遵守しながら事業活動・環境活動に努めます。

9.代表者による全体評価と見直しの結果

2011 年 3 月 11 日東日本大震災、我々が想像を遥かに超える大惨事となったのは記憶新しいものです。

震災によって、電力不足等が深刻になりなお一層の節電が必須であることやエコアクション活動の接点・重要性を再認識させられました。

現在、行っている活動は些細な事かも知れませんが、震災により一層社員一人一人の活動の意味・重要性が理解され浸透したことを感じられます。

今回の結果で、数値を計測し分析しもっと何が出来るのか、また何をすべきなのかを一人一人がプランを出し、会社全体で実施して行ける組織作りを展開するよう努めます。

平成２４年４月より、対象部門を全社・全部門を拡大にする為の準備を平成２３年４月より進めております。

株式会社 シズデン
代表取締役 増田 玲司